

○稲田議長 傍聴の皆様にお伝えいたします。先ほどから私語、あるいはスマートフォンを操作されてるように見受けられる場面がございました。お手元に既に傍聴にお越しの皆様へという注意書きが配付してあるかと思えます。こちらに従って傍聴ください。拍手等の行為も禁止されておりますので、あらかじめお伝えしておきます。

では、次に、松田議員。

[松田議員質問席へ]

○松田議員 会派よなご・未来、松田真哉です。代表質問に関連し、質問をいたします。

まず、米子駅南北自由通路、この事業について質問をいたします。南北自由通路の投資効果について質問をいたします。伊木市長の政策の目玉であった、肝煎り事業でもあり、伊木市長1期目の市長選挙の大きな争点でもあった南北自由通路が昨年開通いたしました。もちろん橋が架かって終わり、できて終わりではありません。これからが本番、これからがスタートです。中長期的なスパンを持って投資したお金をいかに回収していくのか、それが大事になってくる、そう思います。

改めて、米子駅南北自由通路事業の中身を見てみると、自由通路工事が30億円、駅南広場の工事が3億5,000万円、測量や設計費が3億円、そしてJRなどへの補償金や用地費が39億5,000万円、合計76億円。つまり市民の皆様の税金から76億円を投じたということです。さらに、これから予定している米子駅北広場の整備や市道米子駅目久美町線の工事を合わせれば90億円近くになります、90億円。

市長も、60年に一度の大事業と述べられているように、近年の事業の中では投じるお金、税金は群を抜いています。平成28年から令和元年に行われた米子市クリーンセンター、河崎の可燃ごみ処理施設ですが、の長寿命化のための基幹的改良工事が総額約35億円ということですから、その倍以上となる米子駅南北自由通路の76億円がどれだけ大きな投資であるか分かると思います。

約76億円をかけた投資、大事業で、これからどのような効果が生まれるのか、市民がどのような成果を実感できるのか、市長も、この議場でもメディアでも、自由通路が完成して終わりではない、架けて終わりではない、これからが始まりだ。再三述べられている。投資をしたからには、当然その投資額に見合った効果を獲得していかなければならない。

そこで伺います。米子駅南北自由通路の投資効果、駅周辺の土地価格の上昇や企業進出など、どのような効果を見込んでいるのか、目指しているのか伺います。

○**稲田議長** 伊木市長。

○**伊木市長** 詳細については部長のほうから後ほど答弁させていただきますが、まず、その御質問の前提として、松田議員、先ほど公共工事を回収するフェーズに入るってというようなお話がございましたけども、公共工事の場合は民間投資と違いまして、回収という概念ではなくて、便益、つまりベネフィットですね、BバイCのB、ベネフィットによる投資効果、これを狙いながらやっていくものでございますので、金銭的な回収という概念、民間投資とは違うというところは私のほうからまず申し上げておきたい

というふうに思います。

その上で、この南北自由通路につきましては、今まさに歩いて楽しいまちづくりと、大きくはそういうふうに総称しまして、駅周辺あるいは公共交通の利便性向上、様々な政策と組み合わせながら、その投資効果の最大化を図ろうというふうに行っているところでございますが、御質問につきましては、部長のほうから詳細答弁させていただきます。

○**稲田議長** 伊達都市整備部長。

○**伊達都市整備部長** どの程度の土地価格の上昇及び企業進出があるかということの御質問でございますが、米子駅南北自由通路の整備による駅周辺の土地価格の上昇や企業進出については、数値目標は設定はしてはおりませんが、米子駅南北自由通路の開通を契機といたしまして、駅周辺の社会基盤の整備を実施することで民間事業者の進出を促し、駅周辺のにぎわいの創出につなげていきたいと考えております。

○**稲田議長** 松田議員。

○**松田議員** 先ほど吉岡議員の代表質問に対する答弁でも南北自由通路による固定資産税の増加については具体的な増加見込額は示されませんでした。代表質問でもあったように、伊木市長は、1期目の市長選前の市民団体との意見交換会の中で、南北自由通路整備における投資効果として、北側で1億円、南側で1億円、合計2億円の固定資産税の収入の増加を見込んでいると訴えておられました。そして、同じ時期の市長選前のチラシ、市政Q&Aにおいても、最近多く寄せられる質問について伊木隆司がお答えしますとして、60億円の予算、この時点ではまだ60億円でし

た。60億円がかかると聞きましたが、採算が合うのですかとの問いに対し、この事業に伴って発生する固定資産税収入の増加が年2億円と見込まれている。十分に採算が合う事業と答えられていました。2億円の固定資産税増加についてはイメージ湧きにくいと思いますが、例えば米子市の場合、床面積が700平米程度の鉄骨造りの2階建ての事務所で年間大体100万円の固定資産税収入になる。大きさとどうかっていうと、旧ハローワーク、今の博労町庁舎より一回り小さいぐらい、ほかに例えれば、中規模程度の金融機関の店舗がそのような形の大きさです。

単純に考えると、南側に1億円の税収が上がるには、床面積が700平米程度の鉄骨2階建ての建物が100棟建つという計算になるんです、1億円を見込むには。米子市全体の家屋、建物の固定資産税の金額が、令和4年度で約43億円ですから、2億円という数字がいかに大きいかが分かります。

改めて伺いますが、2億円の固定資産税収入が増加する見通しとなりましたか、企業誘致、民間投資のめどが立ったんでしょうか伺います。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 これは先ほど代表質問の答弁で申し上げましたとおり、当時、これまだ私が市長になる前の話でございます。市長選に当たりまして、私は当然この米子駅南北自由通路、このがいなロードの整備というものを訴えたわけですが、ある候補者は、これは無駄であるということを生懸命言っておられました。それに対して私が無駄でないということをお話をするために、正確に言いますと、本市の負担額、これは公共工事でございますので、国

の負担額や、あるいは県の負担額、今回についてはあるわけ  
ございますけれども、それを除いた本市の負担額、結果的に十数億  
であったわけでございますけれども、それに対する増収効果とい  
うものも十分図られるのではないかとこのところで話をしたも  
のでございまして、代表質問の答弁でいたしましたように、そのロ  
ジック自体には今でも妥当だというふうに思っております。

ただし、正確に幾らということについては、どこまでを囲うか  
ということにもよってきますし、今まさに駅の南側では、例えば  
JR敷地で企業誘致、新たな入札案件が発生するなど、様々な動  
きが出てきております。これらをどの程度、時期も含めて、ス  
パンも含めてですね、拾っていくのか、これにもよりますけども、  
直後すぐに出るということは決して言っておりませんので、その  
辺りはそういった前後の関係というものを含みおきいただきたい  
というふうに思います。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 確認で、2億円という数字、これは確度を持って見  
込まれると言っておられましたけれども、それは間違いないです  
よね。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 これ何度も先ほどから言っているとおり、当時、これ  
を無駄だ無駄だと言っている候補者がいらっしゃいましたので、  
そうではないということを行うために私が例として申し上げたも  
のでございます。したがって、そのとき申し上げたロジック  
というものは今でも妥当だというふうに思っておりますが、これ  
を正確に集計するためにはどの範囲、それからどれぐらいの時期、

いろいろと前提があるわけでございますので、それを広く囲うのか、どう囲うのか、それによって数字は変わってくるわけですから、そこで正確に申し上げることはできません。

ただし、何度も申し上げたとおり、当時、無駄であるという意見に対する反論として申し上げたロジックは今でも正しいというふうに思っております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 ちょっとこだわりますけど、2億円、数字、将来見込まれるかどうか分からないけれども、その辺りは2億円程度は見込まれると言っておられましたけれども、それはあまり確度がないイメージで2億円という数字を言っておられたんですか。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 これ何度も繰り返し答弁しておりますけれども、固定資産税も当然ありますし、それから先ほど代表質問の答弁させていただいたのは、例えば駅のお店、売店が非常に今売上げも好調であるということを考えますと、税収効果というものは、固定資産税はもちろんですけれども、それから法人税収等も含めて、十分上がってくるのではないかということはあるのではないかとこのように思っております。したがって、当時、市長になる前の当時ですね、申し上げたこと、これはあくまで、無駄だと言ってきたことに対する反論というふうに言って私は何度も答弁してはいるんですけども、そのことについては私は妥当であったというふうに思っております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 妥当であったということですけども、市長になら

れる前、当時といたしますけれども、でも、市長はやはり民間の御出身で、税理士であって、発言される具体的な数字には大変重みがあると思うんです。私は、市長が固定資産税収入2億円見込まれる、明るい投資後の期待を持って市長に投票された方、大変多いと思うんです。あまりにも、今の答弁を伺うと、当時2億円と言ったことは、はっきり楽観的な数字だったような形の言われ方ですけれども、それは無責任ではないですか、いかがですか。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 その論でいきますと、当時、無駄だと言った人、今あの南北自由通路ができて、がいなロードができて、様々な効果が生まれてきております。明るい米子の未来に希望を持つ方もいらっしゃると思います。そういった方について、無駄だと言った人はどう反論するのか、それが聞きたいところでございます。

○稲田議長 傍聴の皆様申し上げます。会議中は静粛にお願いします。静粛にお願いします。

松田議員。

○松田議員 無駄だと言った人がどう反論するのか、ちょっと何か、答弁、別の質問でもうちょっと聞きますね。

では、私はやはり、でも、税理士だった市長が言われる数字っていうのは大変重いと思いますけれども、では、中長期的なスパンで考えている固定資産税の伸びとか、市長が狙っている投資効果について、もう少し分かりやすいように、投資効果を見込まないまま通路事業に着手されたわけではないでしょうから、説明していただけないでしょうか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 投資効果の話が先ほどからされておりますけども、まず、基本的なことを申し上げますと、まちづくりにつきましても、例えばこのハード事業とか、そういう根本的な計画といいますのは、都市計画のマスタープランですとか、先ほど、昨年策定いたしました立地適正化計画などがあります。そのスパンというのは、基本的には大体20年ぐらいを目途に、そういう期間を目途にいろいろ物事を進めているわけでございます。それで、私ども様々な形で、自由通路もそうですけども、それに併せるところで、御承知のように、いわゆるウォークブル事業を推進しているわけでございます。令和3年度からやってるわけでございますけども、それにつきましても、国の事業ですから、元になるのは令和元年度だったと。その令和元年度あたりの状況を今から振り返ってみると、人口が減少する中で右肩下がりの、どうしてもやっぱり、ことを想定せざるを得ませんでした。ですから、目標値につきましても、通行量についても現状を維持ですとか、お店についても、これは以前、松田議員のほうから1件という目標はあまりにも少ないじゃないかという御指摘伺いしましたが、それは実際に私も実体験として何度も言ってますんで、これは1店ってことはないなと思ってるんですけども、そういう状況でした。

ただ、これが今実際にできて、自由通路ができて、それで今この皆さんの肌感覚として、じゃあ駅前がどうかという話をいろいろ聞きますけども、やはり物すごく期待感を持って、市長が先ほど答弁させていただいたように、見ていただいています。ですから、そのことが今後、いわゆる私どもがにぎわいの創出というものを目指しておりますのは、当然その中には具体的な目標数値はあり



ませんが、固定資産税の増とか税収の増ってというのは含まれてるわけです。ただ、その目標数値の設定が、やっぱり税ってというのは景気の動向とか、これも以前答弁でお答えしましたけども、社会経済情勢によって変動しますから、非常にそれは、あと評価替えとか、もうそういう技術的な要素もありますんで、ちょっとやっぱり難しいのかなというふうには思いますけども、確実に、要は私どもが現時点では期待できるという効果というのはこれから生じてくるものだというふうに考えているところでございます。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 納得なかなかできませんけど、ちょっと別の質問します。

米子駅を交通結節点として強化するとも述べられています。具体的にはどういう機能強化を目指されてるのでしょうか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 米子駅を交通結節点として強化するに当たっての構想でございますけども、これも市長のほうに述べておりますけども、まず、本市が進める、車中心から公共交通と歩行者中心への空間へと転換する、歩いて楽しいまちづくりの実現に向けまして、この米子駅の交通結節点としての強化は必要不可欠。これは皆さんそう思われていると思います。

それで、この米子駅南北自由通路の開通によりまして、駅へのアクセスが、これも御承知のことかと思っておりますけども、駅の南側からも可能になったほか、新たに高速バス事業者が駅南広場を利用し発着するようにもなりました。今後は米子駅の交通結節点としてのさらなる機能強化を図りたいというふうに考えておりまし

て、駅北広場につきましては歩車道の段差解消ですとか、歩行者動線の改善を行いまして、誰もが安心して利用しやすい施設と再整備、そういうことを予定しているところでございます。駅の交通結節点は強化していくと、そういう今申し上げた事業によって強化していきたいと、そういうふうに考えてるところでございます。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 すみません、ちょっと確認で。駅利用者についての目標値、もう一回教えていただけますか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 駅の目標値のお尋ねでございますけども、この社会資本総合整備計画において定めている成果目標値といたしまして、米子駅南北自由通路の開通により、駅利用者数1日当たり7,100人から7,900人に増加させる設定としております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 令和7年に7,900人です。令和4年が5,526人ということですから、今から2,400人は増やさないといけない。

交通結節点を強化するのであれば、JRの便数や米子駅の発着の路線バスの便数を増やすことは目指されないのでしょうか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 まず、JRさんの便数につきましては、それは基本的にはJRさんのほうで考えていただくということになるかと思っておりますけども、やはり今回の自由通路につきましては、それとあと、にぎわいの創出につきましては、JRさんと一緒に4者協議というのを設けておりまして、その中でもやはりいろいろ

ろな意見を交わしてるところでございます。

また、バスにつきましては、現在、やはり先ほどから申し上げておりますように、車社会から公共交通への転換ということを考えておきまして、私どもといたしましては、それに基づいて現在見直しをしてるところでございますが、これも昨日答弁させていただきましても、現在、バスを取り巻く環境というのは、運転手さんの不足ですとか、2040の課題等がありまして、非常に厳しい状況であります。ただ、その中でも、申し上げましたようにやっぱり結節点という機能の強化というのは目指していきたいというふうに考えているところでございます。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 やはり交通結節点というからには、ある程度JRの便数なども増やしていく、そういう努力がないと結果が出ないと思われても仕方がないんじゃないかと思えます。

さらに、駅周辺の活性化、にぎわい創出についても何度も言及されており、期待してる市民も多い、先ほどもおっしゃっておられました。もっとイメージできるように、具体的に歩行者数がどの程度増えるんでしょうか、新たな店舗が何店舗出展を目指すんでしょうか。特に南口のエリアがどのように変わることを狙っているのか、市民の方に分かるように御説明いただきたい。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 まず最初に、言われた目標値については、現在、都市再整備計画におきましては、歩行者数は現状維持、新規の店舗については1件以上ということで、これは大体、令和元年度ぐらいの状況をベースに検討しているものでして、現に、じ

やあ実際今がどうなのかといえば、既にクリアはしてると思いますが、その辺りについては今後、次期の様々な事業の中で見直しをする必要があるのかなというふうに思っております。

続きまして、南口についての姿のお尋ねでございますけども、駅周辺のにぎわいの創出につきましては、先ほどから申し上げますように、要は公共交通と歩行者中心の空間へと転換するというのが目指しているところでございます。具体的には、都市再生整備計画、先ほどからお話ししてございますけども、ウォークブル推進事業に取り組んでいるところでございまして、特に駅南側では、市道米子駅目久美町線の整備、あとは目久美公園の再整備、それと新しく新体育館への動線整備などの環境整備に取り組み、民間投資を促すことによってにぎわいにつなげていきたいというふうに考えております。以上です。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 すみません、出店の目標をもう一回。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 この計画において定めている目標値でございますけども、先ほどもちょっとお話ししましたけども、駅前通りを行き交う歩行者数を、これはずっと減少傾向になっておりましたんで、そこを下げ止まりにすること。それと、計画区域内というのは、これは駅の北も含みますけども、新しい商業店舗の新規出店数を1店以上というふうにしておりますが、私も1店以上、実際行きましたんで、もうこれは既にクリアしてるのかなというふうに考えております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 改めて整理すると、駅前通りの歩行者数が現状維持、現状維持ですよね、商業店舗の出店は1店舗、1店舗ね。76億円もかけて、関連含めば90億円かけるのに、1店舗の計画の目標ってというのはやはり低過ぎるんじゃないかなと思うんですけど、市長、いかがですか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 今、私が申し上げた数字というのは、駅の自由通路云々の話ではなくて、基本的に今、駅周辺でやっております都市再生整備事業計画の目標数値でございます。そこは誤解のないようお願いしたいと思いますし、何度も先ほど申し上げましたように、やっぱりこのまちづくりの投資効果というのは、市長も申し上げましたけども、すぐすぐ成果が出るというものではないというふうに思っております。なぜならば、だからこそ全国的に都市計画マスタープラン及び立地適正化計画においても、最低20年ぐらいのスパンを見て計画は定めるわけでございます。

ただ、じゃあ全く効果がない計画はどうなんだということがあられるかもしれませんので、それにつきましては、私どもが基本的には、このたびもそうですけども、5年程度である程度それをローリングしていく、見直していくというような考えを持っておりますので、これからやっぱりそういうにぎわいの創出が出ることを私どもも期待しておりますし、それと肝腎なのは、今後どういう施策を打っていくのかというのが重要なことだというふうに思っております。その準備につきましては、既に市長、副市長のほうから指示を受けておりまして、次期のいわゆる具体的なものについて現在検討をさせていただいてるところでございます。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 まず、近いところで目標で何年スパンでとか、目標の計画の達成時期、目標の時期というのはあると思うんですけど、それはいつ頃をまず目指しておられますか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 繰り返しになりますけども、まず、令和3年度につくりました都市再整備計画、これが駅周辺のウォークブルですけども、この目標数値は、先ほどから申し上げておりますように、歩行者数については現状維持、それで新規出店については1店舗というふうになってます。この再生整備計画が令和3年度から令和8年度、これが期間でございますので、ですから、まずはその計画期間でその目標値を、今現在を立てさせていただいているということです。以上です。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 そっから先はどういう形で進めていくんでしょうか。

○稲田議長 八幡総合政策部長。

○八幡総合政策部長 これも先ほどお答えさせていただきましたけども、既にある程度のめどは立ってきておりますし、市長も申し上げましたけども、やはり駅のにぎわいというのは、これは皆さんの肌感覚でも分かってらっしゃるかと思えますけども、かなり出てきたかと思えます。

ただ、今後は、今の現状をベースに、やはり歩いて楽しいまちづくりを進めるための、もう少し広い観点でのものについて早急に検討するようという指示を受けております。

ただ、現在、じゃあ、それがどういうものなのかにつきまして

は、この場でお答えするというまだ段には至っていない、これは御了解いただきたいと思います。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 そうすると現時点で、通路ができる前から今現在比べて、どの程度成果を自己評価、米子市としてはされておられますか。

○稲田議長 伊達都市整備部長。

○伊達都市整備部長 自由通路ができる前との比較ということでございます、評価ということでございます。米子駅南北自由通路は、米子駅周辺の利便性を向上させ、まち構造を大きく変化させたと実感しているところでございます。自由通路内からの眺望や地域の特徴を生かした様々なデザインなどにより、自由通路そのものが市民や観光客に親しまれる空間として利用されているところでございます。米子駅におけるJR利用者数やシャミネの売上げについても、JRからは好調であるということで伺っておるところでございます。以上です。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 先ほども肌感覚で、駅が、南北通路ができて、市民の方かなり変わったと感じておられるというお話を聞きましたけれども、なかなか私の元にはそういう声は届いてないのが現状なんです。先ほどまち構造が大きく変わったという答弁がありましたけれども、それはあまりにも自己評価が甘いんじゃないかなと思うんです。市民の方は、まだ大きく変わった、駅の南北通路ができて、南側がどんどんどんどん違う姿になっていって、駅に行く頻度も増えていったね、そういうふうに思っておられる方は

まだまだ少ないと思いますよ、私はね。

ちよっともう一回、市長に、しつこいですけど、聞きたい。固定資産税2億円ということで、先ほど質問の中では、市長選のときに別の候補者で駅の事業が無駄だ無駄だと言うので、それに対してロジックとして言われた。その当時は2億円の固定資産税収入が見込まれると、税理士さんですから、確度を持って、そのときは公約として考えておられたんですよね、いかがですか。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 これはもう繰り返しになっております。あくまでその反対される方に対する私の反論として申し上げたものでございます。じゃあ、実際どれぐらいの税収が上がるか、これは前提の置き方によって変わってくると思います。当時置いた前提は、それはそれで一つの前提だったとっております。したがって、あくまでロジックは私は妥当であるということを申し上げてるのはそのことでございます。前提の置き方によって数字は変わるわけでございますので、今回その南北自由通路、がいなロードを完成させたことによって、今後増える税収のはかり方、これも前提の置き方によって変わってまいります。したがって、あくまでロジックが妥当であったということが私は大事だというふうに思っております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 私やっぱりなかなか理解が悪くて。私何回もあの配信されてる動画を見て、市長は自信を持って2億円増えますとおっしゃっておられるんですね。こういう市政Q&Aという紙を作って、配って、それを市民見て、それで市長に投票しているんで



すよ。やはり今ロジックだからとか、それはあまりにも無責任だと思いますよ、私は。

ちょっと聞きますけど、改めて、市長の中では、南エリアがどのような開発が進んだり、どのような景色になれば南北自由通路の成果があった、しっかり出たと判断されますか。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 あくまで南エリア、南口を開いたということがまず第一でございますけれども、それによりまして、特に米子市内の南部エリアからの駅へのアクセスというものがこれから改善されるわけでございますけれども、これもやはり使った方から順次、南口便利だねという声はいただいておりますが、まだまだ浸透してるとは思っておりません。やはり南口だけではなくて、今まさに目久美町線整備をしておりますけれども、道路ですとか、あるいは歩行動線などなど、この辺りもししっかりと整備をかけていくことが重要だというふうに思っております。

それと、例えば東山に米子アリーナを造る予定で今動いているわけでございますけれども、南口から米子アリーナまで、この歩行者動線として約1.4キロから1.5キロ、これは十分歩ける距離でもあるわけでございます。そうすると、そうしたところを東山公園エリアを使われる方が、例えば東山公園駅だけでなく、米子駅の南口から出て、人の流れが仮にできてくるようになれば、より一層その辺りの開発というものに一つの誘引になっていくのではないかと思っております。

これは市長選に出馬する前からずっと言ってることなんですけれども、鳥取駅だとか松江駅だとか、過去に、もう昭和の後半です

ね、高架だとか、そういった形で南北、駅の結節点の改善ということをやったところも、当初はしばらく南口の開発っていうのは行われなかったと聞いております。だから、やはりこれはある程度時間をかけて効果というものは出てくるんだろうなというのは、これは既に先行して実施した鳥取市や松江市の事例などから見て私はそのように思っております。したがって、駅の南口ができた効果をすぐに出るもんだというふうに思ってた方も中にはいらっしゃると思いますが、そこまでさすがに即時効果が出るようなものではなく、ある程度息の長いこれは事業であるということは、投資効果を得るにはですね、事業だということとはぜひ御理解をいただきたいところだと思っております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 私やっぱりこの質問をさせていただくに当たって、本当に何回も見させていただいて、あの動画で言っとられたことをですね。本当に自信を持って税収が上がるって言っとられたんで、私、今回もうちょっと期待してたんですね。本当に税収が上がるロジックがあるんだなと思いつつながら、それがしっかりここで明言していただけるのかなと思ってましたけれども、なかなかちょっと私の期待とは違ってたかなと思います。

駅の通路ができて、税収も上がらない、土地の価格も上がらない、歩行者数もなかなか増えない、南側の景色もなかなか変わらないのでは、やはり事業の成果はあまりなかったんじゃないかな、そういうふうに市民の方は思われると思います。

これからどうなっていくのかっていうのを市民の方は注目しています。大きな税金を投じてしていった事業ですから、中長期的

のプランを持って、しっかり結果が出るように仕事をしていただきたい。引き続きこの駅の投資効果については、短期的に出なきゃならないところもあると思いますし、なかなか景色が変わらないのであれば、引き続き今後以降も追及をしていきます。

次の質問に入ります。公共施設マネジメント、公共建築物の総量抑制について質問をいたします。米子市の財政見通しで示されているように、生産人口が減り税収が減少して、少子高齢化の進展により扶助費、つまり社会全体で支えるためのお金が増えることが見込まれています。その反面、公共施設の維持に回せる費用が残念ながら減っていき、公共施設の総量、つまり延べ床面積を減らしていくことは避けられないと考えます。

本市でも公共施設の総量抑制に向けた計画が策定されていますが、改めてその背景や目的をお聞かせください。また、学校施設も総量抑制の対象となっているか伺います。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 公共施設等総合管理計画の策定の背景と目的ということalmazはということでございますけれども、背景につきましては、先ほど議員おっしゃられましたように、高度成長期を中心に様々な公共建築物の建設とインフラ施設の整備が進められてきておりましたけれども、人口減少、少子高齢化などの影響によりまして、今後、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となることが見込まれることから、平成26年に国から計画策定の要請があったものでございます。

それと目的でございますけれども、この計画は、本市が保有します公共施設等の全体の状況を把握しまして、長期的な視点を持

って長寿命化、更新、統廃合を計画的に行うことによりまして財政負担を軽減、平準化するとともに、公共施設等の最適な配置を実現し、時代に即したまちづくりを推進することを目的としております。

それともう一つ、学校施設が対象となるのかということでございますけれども、この計画におきましては、一部の更新費用が不要な施設などを除きまして、総量抑制の対象としております。学校施設も例外ではなく、今後の老朽化対策を効果的に進めていく必要があると考えております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 ちょっと確認ですけど、国の要請でつくったみたいな答弁が先ほどあったんですけども、私は人口減少もなっていて、財政も厳しくなるから、やはり主体的に計画を、この公共施設を削減していかなければならないという観点から策定したと思ってるんですけど、それは違いますか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 先ほども申しましたように、高度成長期ですね、その頃に非常に大きなインフラ整備を集中的にやっております。ですので、そういったことは米子市に限らず、全国的な状況でございましたので、そこら辺を総務省のほうはそのピークですとか、そういったものをしっかりと見極めて、持続可能な自治体運営をする必要があるということで、もともとは総務省のほうからそういったような要請があったものでございますけれども、その当時から米子市におきましてもいろいろな長寿命化ですとか、大規模改修というのはやっておりましたけれども、どちらかというと

長期のパンという形ではなくて、割と短期的に手直しをやっていくというようなことをやっておりましたので、そこに長期的な視点も踏まえてこのたび、このたびといいますか、これを受けましてこのような計画を策定をして進めていきたいということで、国と我々市のほうのベクトルが合ったといった形になっておるといってございませぬ。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 ちょっとなかなか民間と行政の考え方が違うのかもしれないけれども、行政でもやはり計画というのが、目標があれば、それは達成するということは当然ですよ、それを目指していうことは、いかがですか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 米子市でも様々な計画をつくっておりますので、もちろんそれが未来永劫その目標でよいということではございませぬので、適切な時期にローリングをしながら、見直ししながら、それを達成に向けて努力をしていく、積み重ねていくということが重要であるというふうに考えております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 伺いますが、計画の具体的な目標はどう策定されてありますか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 総合管理計画につきましては、40年で20%を削減するというのを一つの目標にしております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 それでは、公共施設総合管理計画の計画の達成状況、

延べ床面積削減の達成状況は今どのような形になっておりますか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 計画の達成状況ということでございますけれども、令和8年、これを策定をした年度でございますけれども、すみません、令和28年度に策定しまして、それから10年間で……。

○稲田議長 令和28年度……。

○下関総務部長 すみません、平成28年度からということでございます。平成28年度からの10年間で延べ床面積の5%を削減するという一つの目標にしております。令和5年3月31日現在の進捗状況、これにつきましては、平成27年度末の時点と比べまして、床面積が削減率1.77%、削減面積が8,500平方メートルということになっております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 先ほどありました計画の目標に対して、計画の40年後の目標、令和35年頃ですけれども、この目標が延べ床面積の20%を削減ということです。これどれだけの数字かということ、令和5年3月末に比べると8万7,796平米、約2万7,000坪を削減していかないといけない。これがどれぐらいの大きさということ、例えば本庁舎7棟分、ふれあいの里であれば11棟分、令和4年に完成した小学校、啓成小学校で例えれば17棟分を削減していかないといけないんです。これだけの延べ床面積を見直さなければ将来的に公共施設の維持が難しいのではないかとということです。

全体では1.7%床面積は減っていますけれども、市役所庁舎などの行政系の施設の延べ床面積は、博労町庁舎、旧ハローワーク

の取得により4.86%増えています。減るところか増える。この辺りどういう考えですか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 これ非常に長いスパンでの計画ということは御承知のとおりだと思います。その長いスパンの一つの短いスパンの中では、必要なものは当然投資をしていっておりますので瞬間的に増えることもありますし、時にはぐっと減っていくという場合もあろうかと思えます。ですので、その短いスパンで一喜一憂をするということではなしに、やっぱり長期的な視点でやっていく必要がある計画だというふうに考えております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 私もそう思います。ただ、5%という目標の達成に向けては、ある程度現実味が帯びてるといえるか、達成可能なのはそんなに難しくないんじゃないかなと思うんですけど、これが10%、20%っていったときに、本当にできるんだらうか。今の公共施設の管理計画を見てると、まだそこまで長期的にきちんと示されていないんじゃないかなと思うんです。あわせて、公共施設の中で学校教育施設が約4割、市営住宅が約2割と、全体で大きな割合を占めています。学校教育施設も市営住宅も長寿命化に向けた計画はある程度策定されていることを確認しましたがけれども、総量抑制の観点というのはまだ不十分じゃないかなと思うんです。

そうすると、やはり先ほど言われたように現実を捉えて、将来にツケを回さないように中期的に、今の計画よりもっと踏み込んで、どの程度、どの施設を削減するのか、より具体的にもっと複合化とか多機能化とか検討をして、策定をする必要があるんじゃない

ないかなと思うんですけど、いかがでしょうか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 詳しい計画をと、具体的な計画を定めるべきじゃないかというお問合せでございますけれども、現時点においては、議員おっしゃいますように詳細な工程表を定めているというわけではございません。直近の目標といたしましては10年で5%、こういった目標を持ちつつも、今後の社会情勢などの変化と必要となる住民サービス、この双方のバランスを取りつつ進めていくことが重要というふうに考えております。

なおまた、先ほどもいいましたように、こういったような総合管理計画、随時改定することとしておりまして、目標値につきましても、その時点における公共施設などを取り巻く状況を踏まえまして見直すことも当然あり得るものと認識をしております、このことについては従来から議会のほうにも御説明をしているとおりでございます。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 取りあえず5%の達成というのが目先の目標、計画の目標だと思いますけど、それは達成がある程度確かにできる状況なんでしょうか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 10年間でというところでございますけれども、今それこそ1.77%というところでございますけれども、今後、義務教育学校ですとか、そういったような、これから、今、今年も市営住宅の廃止というような議案も上程させていただいておりますけれども、そういったようなことも含めまして、こちらのほ



うの一通りの目標っていいですか、見通しということであれば、それこそ令和10年、11年ぐらい、少しその計画とはずれるのかもしれませんがけれども、そういったようなところでは削減率としては5%を超えていくというふうに見込んでおるところでございます。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 私やっぱり民間のときも計画を達成するというときにはこだわる必要があると思ってるんです。それは行政でも同じだと思うんで、先ほどの話の何か目標について少し延びる、延びそうだなみたいなところですけど、そういうスタンスでいいんでしょうか。

○稲田議長 下関総務部長。

○下関総務部長 先ほども言いましたように目標は目標として、やっぱりそれはきちんと踏まえていくっていうことは必要だろうと思っております。ただ、公共施設ということは、住民の皆様いろいろなサービスを提供しているという側面もございます。したがって、これをダウンサイジングしていく、あるいは複合化していくっていうようなことになると、それはしっかりと御説明をさせていただいて、御理解をいただいて進める必要があるというふうに考えておりますので、計画がずれるということをやしとするわけではございませんけれども、そういった場合もあり得るのかなというふうには思っております。ただ、先ほど言いましたように目標は目標として、それは持ちつつ進めていくということをしっかりやってまいりたいというふうに考えております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 やっぱり私も企業の事業計画とかを見てまいりましたけれども、目標が近いところにあつてちょっと難しいかなということであれば、見直して、どうやってやっていくかっていうところに持っていくんで、やっぱり必達だと思ふんです。きちんと書面に書いて計画を市民にも示しているのに、今の段階からもう計画達成できませんみたいな、それはちょっと甘いんじゃないかと思ひます。

副市長とか市長とか、どうですか。

○稲田議長 伊澤副市長。

○伊澤副市長 先ほど総務部長のほうからお答えしたとおりであります。目標はしっかり目指していきたい、これは議員がおっしゃることと全く同じであります。ただ一方で、これも先ほど御答弁したとおりであります、公共インフラ、特に公共施設というのは住民の皆さんに公共サービスを提供する最大の資源でもあります。これに対して、利用者の皆様をはじめ市民の皆様をしっかり御理解いただくことが必要だというのは、これは当然のことです。これをしっかり両方やっていくということが必要です。

公共施設総合管理計画というのは、これ以前も議場でお答えしましたが、ずっと、一回決めたらおしまいということじゃなくて、ローリングしていく。つまり現状が必ずしも計画どおりにはならないこともありますし、それから40年後を確実に見込むということはなかなか難しゅうございますので、その状況に応じてローリングしていくということが必要です。そのローリングの過程の中で、今、議員が御指摘のような目標の達成時期、あるい

はその内容、こういったことを見直していくということをやっていく必要があるだろうというふうに考えております。今具体的にこれをいつ、次のローリングをしていくかっていうことは決めておりませんが、当面その10年間という目標が近づいてきておりますので、それも視野に、今後の進め方を考えてみたいと思っております。以上です。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 ちょっと私言ったのは、やはりたくさん計画見るんですけども、やはり議会に入ってみると、計画に対する考え方が甘い、立てて終わりみたいな形になってるところが結構私は感じられるんです。ですから、この計画についても指摘させていただきました。

次の質問に入りますけれども、特にまた議論が必要だと思うのは、全体の4割を占めている学校の施設の在り方だと思います。公共施設の総量抑制の観点からも検討は必要なんですけれども、やはり子どもたちのためにはできる限り維持していくっていう視点も必要じゃないかなと思います。そのためには、地域で複合的に学校施設を活用して、コミュニティの拠点としての役割を検討する時期が来ていると考えるんですけども、現在はグラウンドと体育館は開放してある。まだ教室などは対象外となっています。学校施設の地域活用は、今まさに計画を進めている美保地区の義務教育学校の一つの課題ではないかなと思います。

そこで伺いますが、学校施設のさらなる有効活用や複合化、地域開放を検討していく必要があると思いますが、いかがでしょうか。

○稲田議長 長谷川教育委員会事務局長。

○長谷川教育委員会事務局長 学校施設の地域利用についてのお尋ねでございますが、まず基本といたしまして、今後、学校教育上支障のない範囲内におきましては、学校施設の地域利用について進めていきたいと考えております。これは代表質問において、教育長が答弁したとおりです。

その上で、先ほどちらっと触れていただきましたけれども、美保地区の新しく造ります義務教育学校につきましては、その基本構想の中で「地域や社会と連携・協働し、ともに創造する共創空間を持つ」と、こういうことをうたっております。これに基づきまして、地域開放しやすいような施設となるよう、今後、基本設計を進めてまいりたいと考えております。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 検討されるということで、やはりいろいろ調べてみると、学校施設どうしていくんだってというのは、学校だけの問題ではなくて、米子市、地域、まち全体のところで、いかにどうやってここを活用していくのかというのが先ほどの総量抑制の観点の計画ともすごく連携というか、つながっていると思うんです。ですので、この辺りは、その辺りの視点も見据えてやっていただきたい。

やはり削減の話ばかりしましたけれども、もちろん言われるようにただ減らせればいいというものではないというのは分かります。ですので、中長期的に、計画的に、市民の地域の皆様に説明をして総量の抑制、でも、これはやっぱり避けられない現実ですから、その辺りをしっかり計画的に進めていただくようお願いいたします。

時間の都合上、質問は以上で大体終わりますけれども、今回、当初、駅の事業についてはもっと2億円の固定資産税収入についてこうやっていくんだという期待をしていましたが、市長の答弁では、選挙戦の中で一方の候補者が言ったからロジックでそれを言った。公約ではない、なかったみたいな認識ですけど、じゃあ、すみません、公約だったんでしょうか、いかが、そのときどうですか、2億円という数字、固定資産の、改めて。

○稲田議長 伊木市長。

○伊木市長 もう繰り返しになりますので省略いたしますけれども、先ほど申し上げたとおりでございます。何を言っても何か言われるなというところがございます、大変困ってはいますけれども、先ほど申し上げたとおり、そのときに、まだ市長になる前の段階で申し上げたこと。公約としては南北自由通路、これをしっかりとやりたいということは申し上げましたけれども、その反対論に対しまして私なりに反対をしたというところがございます。以上です。

○稲田議長 松田議員。

○松田議員 私は2億円という数字、皆さん期待して入れましたんで、あまりにも無責任ではないかなと思います。

私の質問はここで終わりますが、引き続き駅の投資効果や今回できなかった市役所借地の解消の問題等追及してまいりますので、よろしくお願いいたします。以上で終わります。（拍手）